

エコカー補助金終了！ ～ ユーザーのクルマ選びが大きく変わる ～

新車のエコカー補助金が予定期日より前倒しで終了した。予算枠が無くなったことは、それだけ効果があったともいえるが、一方で需要の先食いなどともいわれ、今後の市場の動きに注目が集まっている。そこで、今回補助金が終わったところで今後の市場を占ってみた。

■調査概要

調査期間 2010年9月10日～2010年9月12日

調査対象 運転免許を所有する18歳～69歳の男女

09年3月以前自動車購入者、09年4月以降自動車購入者、自動車非保有

調査実数 1,500サンプル

調査方法 インターネットによるWebアンケート

調査企画 ガリバー自動車研究所

調査協力 株式会社クロス・マーケティング

■主な設問

- 現在所有するおクルマを購入したきっかけは何ですか。
 - あなたは新車と中古車のどちらがおトクだと思いますか。
 - エコカー減税期間中(09年4月～10年9月)
 - エコカー減税終了後(10年10月～)
 - あなたが自動車を購入するとしたらどちらを選びますか。
 - エコカー減税期間中(09年4月～10年9月)
 - エコカー減税終了後(10年10月～)
 - 新車と中古車を比較した場合の環境イメージをお答えください。
 - あなたの中古車に対するイメージをお答えください。
 - あなたが中古車を購入するとしたらどこを重視しますか。
 - あなたは9月まで実施されていたエコカー購入補助金をどう思いますか。
 - あなたが次に自動車を購入するとしたらどんなクルマの購入を検討しますか。

■レポートに関するお問い合わせ

株式会社ガリバーインターナショナル 広報部

〒100-6425 東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビルディング25F

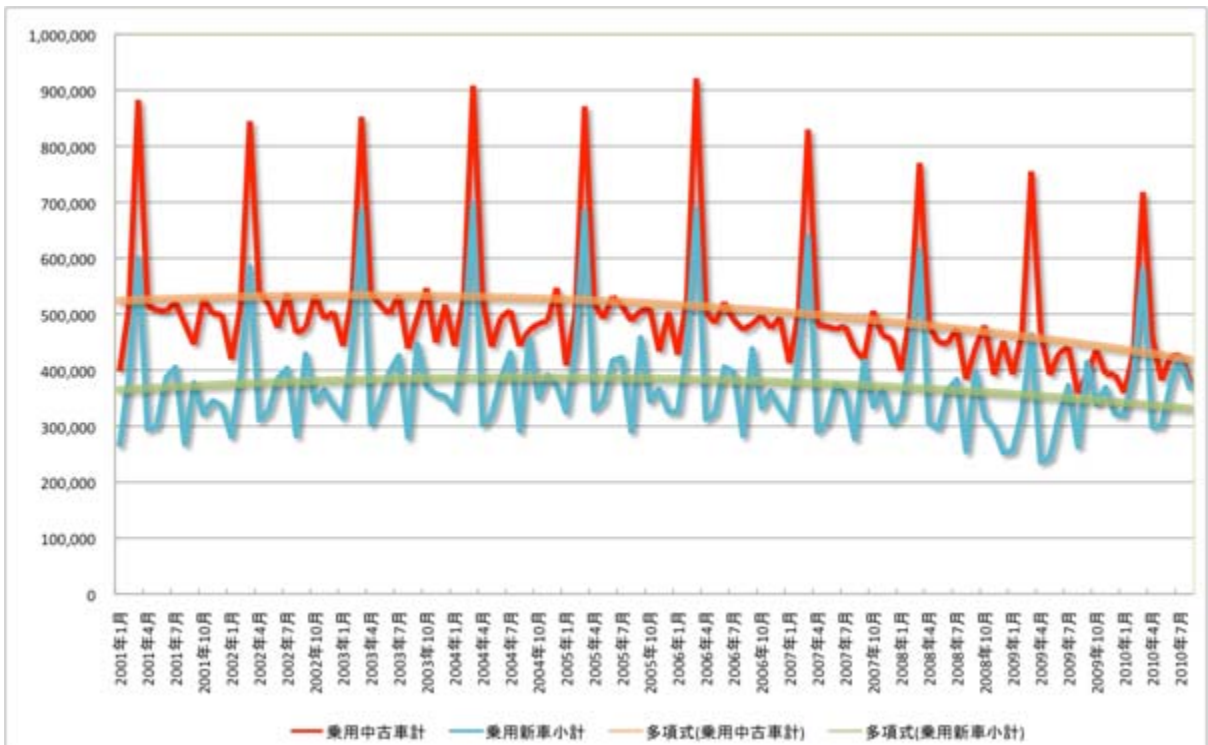
TEL 03-5208-5501 FAX 03-5208-5511

■レポート総合企画／制作 ガリバー自動車研究所 所長 鈴木詳一

人口減少・少子高齢化・都心への人口流入

エコカー補助金が、その予算を使い果たし、受給対象者にとっては好評の中終了した。期限前に終了ということからもわかるように、減少傾向であった自動車市場に対して一定の効果を残した施策となった。グラフからもわかるように基本的に自動車市場は減少を続ける、衰退期に入っている。この市場ははたしてどうなってしまうのだろうか。

乗用車(新車・中古車)の登録台数推移



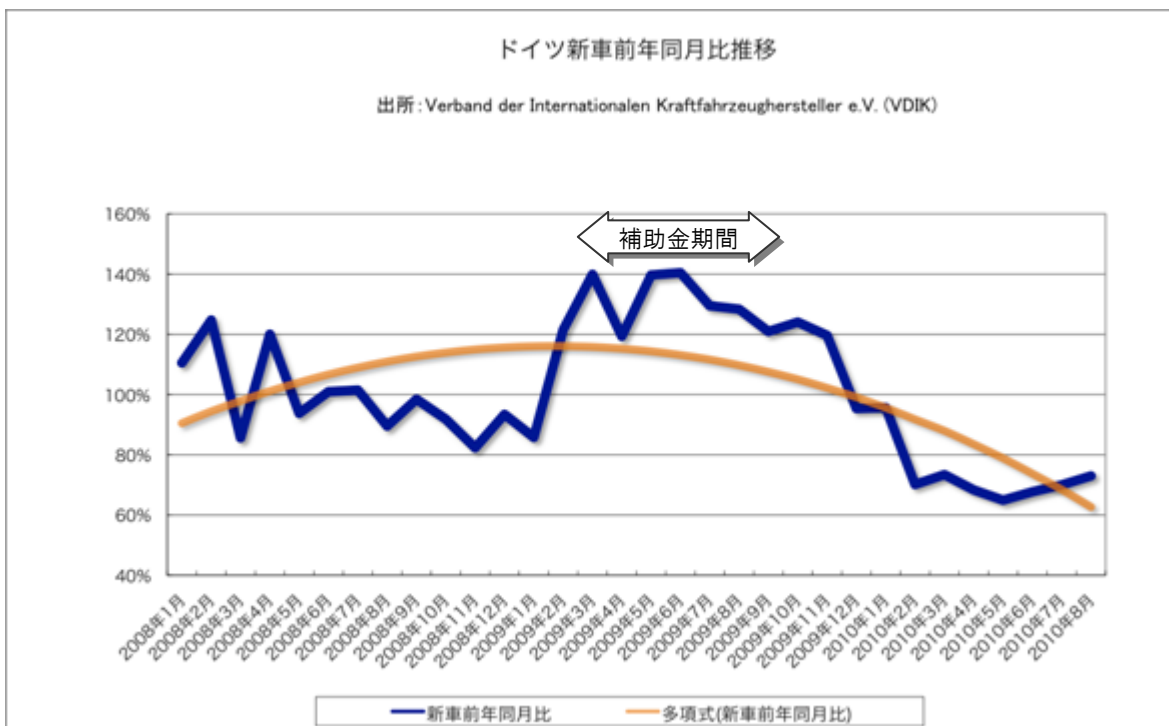
2001年からの過去10年の月々の増減を均してみると、新車も中古車も下降トレンドの曲線を描いている。新車市場に関しては、08年のガソリン価格高騰+リーマンショックによって急激に市場が冷え込み、その後のエコカー補助金などの政府施策によって、販売台数を持ち直し、曲線が緩くなっている。

しかし、それがなければ新車市場も中古車市場と同様の曲線を描いていた事が予想される。となると、補助金施策がなくなった今後は一転して大幅マイナスとなる事が予想される。

ドイツでも補助金効果は絶大！ 補助金終了で冷え込む自動車市場

リーマンショックを受け世界各国で実施された補助金制度。国によって効果はまちまちだが、効果があったということはその施策がなくなると必ず反発した動きとなる。ドイツの事例では補助金期間中に大幅に伸びた新車市場が、終了後激減している事がわかる。そのため日本も同じような状況になるものと思われる。

ドイツの新車販売推移(前年同月比)



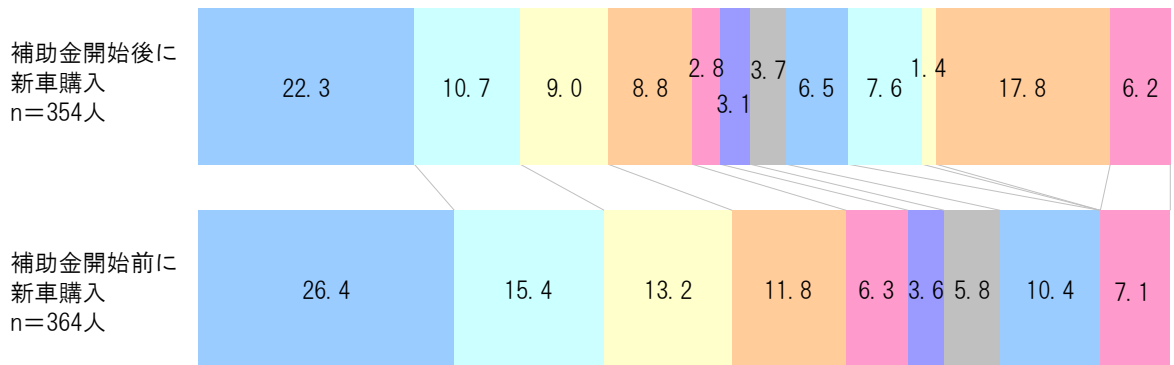
ドイツの補助金制度は、9年以上使用した車を新車に買い換える場合、所有者に2,500ユーロ(日本円で約33万円:2009年9月時点)が支給されるというもので、13年以上で廃車にしなければいけない日本より基準が緩い。ただし、廃車を伴わない場合は購入車が適合車であれば10万円の補助を受けられるという点では日本の方が緩いという見方もできる。

ドイツの例を見ると補助金が終了すると、明らかに市場は冷え込み、また冬へと戻ってしまうことが予想される。

補助金開始前・後で変わったクルマ購入のきっかけ ～ 補助金・減税がきっかけで購入・・・26.8% ～

大きな買い物をするときは、必ず何らかの事象がきっかけとなる。クルマの場合も同様、ここ最近では保有車両に起因する購入が多い。しかし、この1年半で勢力を伸ばした要因が、補助金や減税の国からのお小遣いだ。4人にひとりが補助金がきっかけと回答している事から、その効果は絶大だったといえる。

Q, 自動車を購入した際のきっかけは何でしたか？（単一回答:n=718）



- 車検時期が近付いた
- 走行距離が増えた
- 家族構成が変わったため
- 魅力的なクルマが発売された
- エコカー購入補助金が始まったから
- エコカー購入補助金と減税の両方が始まったから
- 車体が傷んできた
- 故障が多くなってきた
- 事故をおこした
- 欲しいクルマが見つかった
- エコカー減税が始まったから
- その他

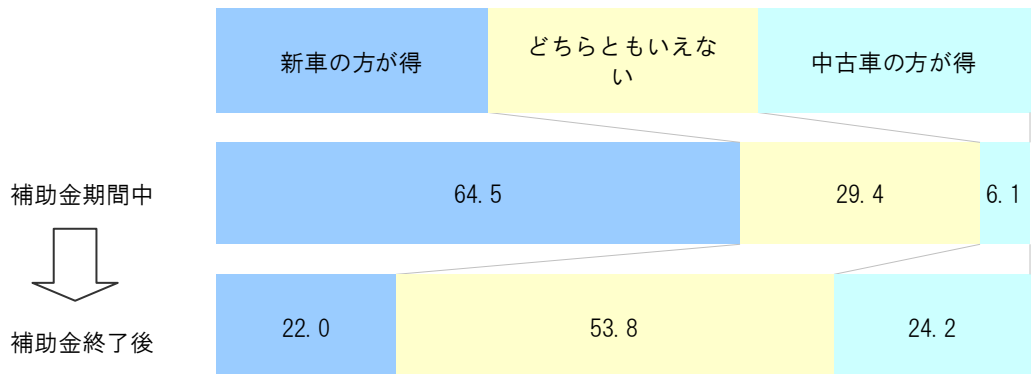
補助金前後で最も違うのは補助金がらみの項目である。その他の項目に関してはほぼ同じような比率で減少しているため、その多くは新たに発生したきっかけといえ、新車販売好調へと繋がっている。

当然ながら補助金が終わった今、これらのきっかけを元に新車を購入しようというユーザーは激減。秋を通り越して冬の時代が予想される。

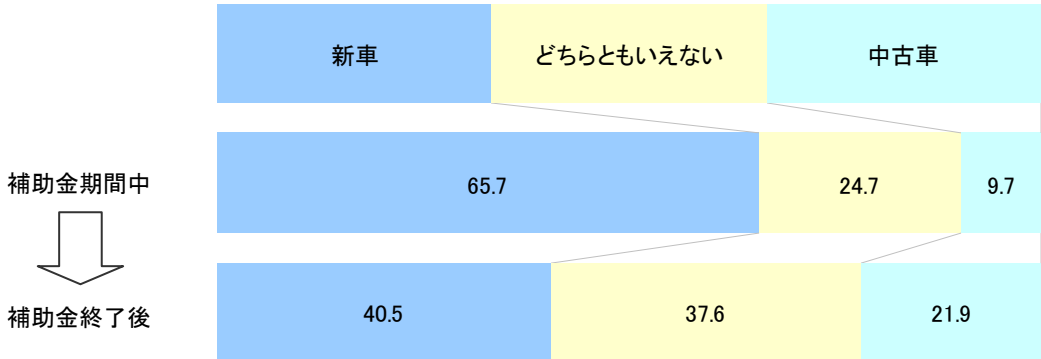
補助金期間中・後、新車と中古車はどっちがおトク？ ～ 補助金期間中は圧倒的に新車がおトク・・・64.5% ～

新車を購入すると5万円～25万円の補助が支給されるエコカー補助金。減税と違って、ユーザー側はある種お小遣い的な感覚のためか、「お得感」を非常に強く感じているようだ。そのお得感が、新車市場を牽引してきたといえるだろう。その結果、購入車種の検討も補助金の有る無しで大きく差が出る結果となった。

Q、新車と中古車のどちらがお得と感じますか？（各項目単一回答：n=1,500）



Q、あなたは購入を検討するなら新車？中古車？（各項目単一回答：n=1,500）



新車には支給されて中古車には支給されない「エコカー購入補助金」。これは一種の特別感へとも繋がっており、すなわちお得感の演出もできているといえよう。それに加えて、「今だけ」「何名様(何億円)まで」など限定感も強く、お得感は更にアップしているといえる。

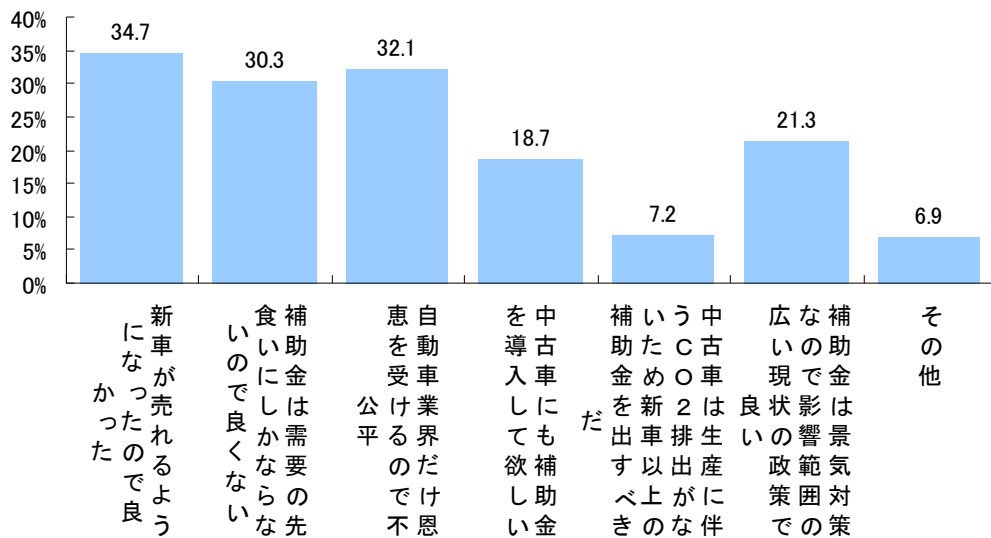
その結果、中古車よりも新車の方がお得と回答するユーザーが64.5%と圧倒的で、それが購入車両の検討へ強い影響を与えている。

補助金終了後は、中古車のお得感が上昇し、購入検討も伸びている。補助金終了後、中古車市場の逆襲が始まるか。

エコカー補助金は良い施策だったか？ ～ 新車が売れたので○・・・34.7% ～

今回の補助金、新車の売れ行きが好調な事や、景気対策なので良しとする声が多かったが、一方で需要の先食いや自動車業界だけなどの不公平感も同程度存在し、賛否両論ある事がわかった。やはり、自分自身も恩恵を受ける施策でなければ、国民は受け入れ難いということだろう。

Q, エコカー補助金に対してどう思いますか？（複数回答:n=1,500）



今回のエコカー補助金について、「新車が売れるようになったので良い」という声が34.7%と多数を占めたが、「自動車業界だけ・・・」32.1%「需要の先食い」30.3%と否定的な声も多かった。

補助金を受け取れるのは、昨年4月から本年9月までの間に、燃費の良いエコカーを購入、あるいは登録から13年超過したクルマからの乗り換えが対象。実際には販売車両の7割程度が支給対象となるため支給範囲はかなり広がった。

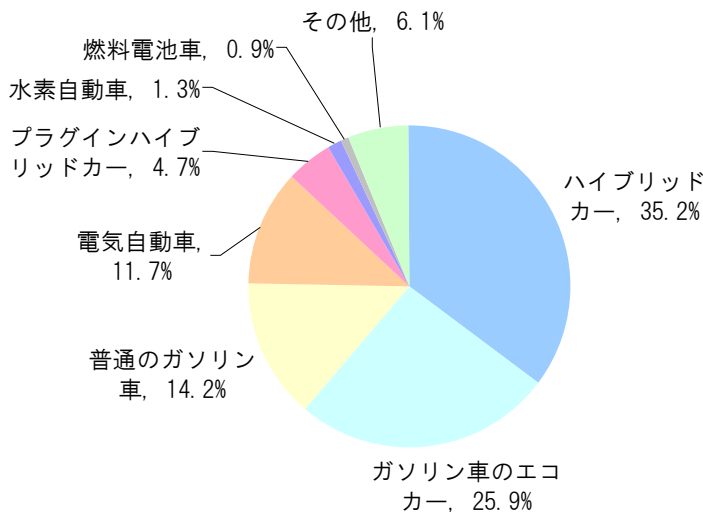
約350万台がこの間に支給対象となったわけだが、これを日本の納税者数で割って見るとどうなるだろう？ 今回購入しなかった約5,000万人の納税者が、350万人の購入者を支えた計算となり、ひとり当たり14人が支える結果となる。1台平均12.7万円の補助金が支給されているので、ひとり当たり9,000円ほど負担していることになる。

こういった背景が全ての面で受け入れられていない理由のひとつとなり、クルマ離れとならないことを願う。

次を買うなら「ハイブリッドカー」・・・35.2%

エコカー補助金の恩恵を最も受けたのが「ハイブリッドカー」。プリウスは爆発的なヒットを続け、未だに納車待ちが続いている。しかし、補助金が終了後でも購入を検討するトップにハイブリッドカーが。「エコ意識」「維持費」「未体験」など、ハイブリッドカーを買う理由がユーザーにはあるようだ。

Q、次にクルマを購入するとしたらどんなクルマを検討しますか？（単一回答:n=1,500）



次に購入するクルマとして検討するトップは「ハイブリッドカー」が35.2%、「ガソリン車のエコカー」が25.9%と他の電気自動車などと合わせるとほとんどのユーザーがエコカーを検討するという結果となった。

CO2排出による温暖化などを気にするユーザーも多いが、実際のところは燃費向上による維持コストダウンが消費に最もつながりやすい。今回のプリウスのヒットも、車両の低価格化、補助金交付、取得税・重量税の免税など、購入コストを大幅に縮小出来ることが重なった事が大きい。

また、「電気自動車」も11.7%と多く、今年一般向けに発売されたi-MiEVやこれから登場するリーフなど何とか手が出るクルマが出てきた事が大きく影響しているようだ。

その一方で14.2%のユーザーが、普通のガソリン車を検討するとしており、まだまだクルマを趣味的に捉え、魅力的なクルマを求めるユーザーも存在しているようだ。普通のガソリン車も、メーカーの努力(義務)によって、燃費はどんどん改善されていっくだろうから、結果的にはエコな乗換えをする事になるだろう。

新車は大幅減の予想。中古車の逆襲開始？

ドイツの例にならって補助金終了と共に新車市場は大幅に売上を減少し、対する中古車市場はこれまでの推移から予測すると安定した水準での推移が予想される。エコカー減税は継続中だが、エコカー補助金より仕組みがわかりづらく集客効果は期待薄。新車に冬の時代が再びやってくる。

自動車市場の予測



8月はエコカー購入補助金の駆け込み需要で驚異的な伸びを示した新車販売。しかし、9月8日の予算消化による打ち切りを境に、販売は厳しい状況にあると予測される。これは、ドイツの新車市場を参考にしたところ、やはり補助金実施中は高い伸びを示したが、終了後に販売台数が激減している。日本は減税策が継続中だが、10万円・25万円など、わかりやすい施策の方が集客効果がある。

昨年4月以降に新車を購入したユーザーも、補助金に反応している比率が高い。補助金は集客において効果があり、減税は契約に効果がありそうだ。そう考えると、集客に効果がある補助金が終了すると、販売台数は厳しい状況になる事が予想される。

対する中古車市場、アンケート結果にもあったように、補助金終了後はお得感や購入検討の比率が高まるため、新車市場のように崩れる事はないと思われる。補助金中もある一定の台数は確保していたため、今後も安定した結果になるだろう。結果的には中古車の構成比が増加する事が予想される。